



管内幼児教育推進研修会

12月16日（金）に口丹波勤労者福祉会館にて、管内の保育所（園）・幼稚園・認定こども園長、行政担当者など**40名の参加**の中、管内幼児教育推進研修会を開催しました。この研修会は、管内の幼児教育施設長が一堂に会し、保・幼の連携を強めるとともに管内の幼児教育の一層の推進を図ることを目的に行われました。



管内の児童・生徒の状況について

★参加者の感想より

★これから予測不可能な時代を生き抜く子どもたちに必要となってくる非認知能力を培うための学び、資質・能力をどのようにつけていくか、「子どもたちは、有能な学び手」という言葉を信じて関わっていきたいと思いました。



実践発表～「対話から気持ちつながる園経営を目指して」～

対話を通して、職員同士の気持ちや保育の方針をつなぐこと、同僚性、組織力、チーム力を高めることの大切さについてお話いただきました。



南丹市立八木中央
幼児学園
久保 佳苗 園長

★自園でもチーム力を高めていくことを目標にしつつも、なかなか思うように進んでいないことも多くあります。園長は職員の担任の先生と言われますが、気持ちをつなぐ、保育方針をつなぐ、同僚性や組織力、チーム力をつなぐなど具体的なヒントが得られました。
★リーダー的な立場になり、園全体を見て、クラスのこと、保護者のこと、職員のことを考えていかなければならないが、楽しい、おもしろい、安心できる場がどの立場でも必要だと思います。子どものこと、保育のことをもっともっと話せる場を作るための良い方法を見つけるヒントを頂くことができました。

講演～「一人一人のウェルビーイングのために」～

子どもたち一人一人が「おもしろい」を見つけ、夢中になって遊ぶ保育を作るためには、職員が子どもたちの発達要求を知り、応えられることが大切であるということを実際の保育の事例を基にお話いただきました。



京都府幼児教育センター
幼児教育アドバイザー
認定こども園ひかりの森園長
大橋 美智子 先生

★大橋先生の講演から多くのことを学ばせていただきました。問題があることがいけないのではなく、それを口に出して言える場があるかどうか大切だと感じ、園経営の中で自分の意見（人とうちがう意見）を出せる雰囲気を作っていかなければと感じました。一人一人の子どもたちが幸せな時間、居心地の良い時間を過ごせる場を大切にしたい保育を作っていきたいと思います。
★いつも子どもたちの事例から学ばせていただくことが多く、ウェルビーイングについて、園内でも研修を深めたいと思いました。また、行事のとらえ方、主体性にこだわりすぎず・・・というアドバイスにもすごく納得ができ、改めて大切なことを確認することができました。
★一人一人を大切に、一人一人に居場所があり、楽しい、幸せと思いながら生活できる保育所でありたいと思います。そのためには、保育士の主体性も大切にしたい園経営をしていきたいと感じました。

グループ交流・協議

- ①自園（所）で工夫されている子ども主体の保育について
②各園（所）での人材育成の取組・悩みなどについて

★コロナ禍の行事について今までの当たり前を見直す機会となったこと、対話の時間をつくることの工夫について、共感させてもらったり、相談させてもらったりと良い時間でした。一人職場と言われる職なのでこういう時間を作っていただきうれしかったです。
★公私立、保育所、幼稚園、こども園とありますが、横のつながりを作っていきたいと強く思いました。



★保幼小連携推進研修会を1月26日に開催予定です。円滑な幼小接続に向けて小学校の先生方と共に学びます。